

# 対話型鑑賞 全ての意見が尊重される

VTS (対話型鑑賞)

は、正解を探す活動ではなく、「見る・聞く・考える・伝える」を繰り返すことで思考を深める活動である。実施の際は、生徒が安心して自由に発言できる環境が必須となる。そこで、生徒同士の理解が深まる2学期半ば

## 魅力発信 わが校の実践

新連載

(2)

### トキワ松学園中学校高校

④



に行っている。

まずは作品を一人で鑑賞する時間を設け、全員が見終えたところでファ

シリテーターである教師

が「この絵の中で何が起きているのか？」と質問し、生徒の発言を促す。

生徒は自分の印象を単語のみで表現しがちだが、教師の「作品のどこからそう感じたか

？」という質問を受け、感じたことや考えたことを根拠とともに発言するようになる。ファシリテーターが、発言内容を言い換えたり、関連付けたりすることで、発言のない生徒も含め全員の思考がさらに深まる。

付きを書いている。生徒の発言には非常に奔放なものもある。だがどんな発言もそれが端緒となり、全員の思考を促していく。初めは普通に着席していた生徒たち。VTSの終わりにになると、身を乗り出して作品の鑑賞をするようになる。

1時間で発言できる生徒は限られるが、発言しない生徒も作品を通してクラス全員と対話している。VTSでは全ての意見が尊重され、否定されない。ここでの対話は、日常の会話とは異なり、相互理解につながる深い対話である。

作品鑑賞の後、感じたことを根拠と合わせて発言する生徒ら

「勝見浩代・小澤慶子 司書教諭〈思考と表現〉担当」

鍛えられる活動だと思っ  
た」など、さまざまな気